

2 業務実績

2・1 微生物科学部

令和6年度は、行政検査依頼として感染症の検査、食中毒・有症苦情の原因微生物検査、食品の微生物規格基準検査、HIVの確認検査、健康福祉部職員のB型肝炎（HBs抗原・抗体）検査等を行った。また、国庫委託事業として、感染症流行予測調査事業（日本脳炎感染源調査）、感染症発生动向調査事業等を行った。その他、これらの試験・検査業務に加え、様々な課題について調査研究を行った。

主な試験検査及び調査研究の概要は次のとおりである。なお、業務実績表を別表に示す。

2・1・1 試験検査

1) 感染症検査

感染症発生届に基づき、保健所等から依頼された検体（細菌316検体、ウイルス・リケッチア86検体）について、検査を行った。検出された病原体は腸管出血性大腸菌、日本紅斑熱リケッチア、ツツガムシ病リケッチア、SFTSV等であった。

2) 食中毒・有症苦情検査

食中毒・有症苦情関連の185検体について、原因微生物の検索及び同定検査を行った。その結果、原因微生物としてノロウイルス、カンピロバクター等が検出された。

3) 食品中の微生物検査

魚肉練り製品等72検体の微生物規格検査等を行った。

4) 新型コロナウイルスのゲノム解析

新型コロナウイルス感染症の変異株の発生动向を把握するため、県内の医療機関等で検出された新型コロナウイルスの検体計1,028件について、ゲノム解析を実施した。

5) その他微生物検査

健康福祉部職員のうち希望のあった85名の血清についてHBs抗原及びHBs抗体検査を行った。

6) 感染症流行予測調査

日本脳炎の感染源調査を、6月下旬～8月下旬にかけて、生後4～6ヶ月のブタ95頭についてJEVに対するHI抗体及び2-ME感受性抗体を測定した。詳しくは3・2資料の項に掲載した。

7) 感染症発生动向調査事業に伴う検査

令和6年4月から令和7年3月までに、検査定点医療機関等において採取された93検体について、A549、RD-A、VeroE6等による組織培養法、遺伝子学的検査法等を用いて病原体の検査を行った。詳しくは3・2資料の項に掲載した。

2・1・2 調査研究

動物由来感染症に関する研究及び薬剤耐性細菌に関する研究として、昨年度から引き続き調査研究を実施している。

また、国立医薬品食品衛生研究所並びに各地衛研による「腸管毒素原性大腸菌の汚染実態調査」に当所も参画した。

微生物科学部業務実績表

分類	事業名	業務	令和6年度		令和5年度	
			件数	延項目数	件数	延項目数
行政検査	(1) 感染症病原体検査	細菌	316	540	159	223
		ウイルス・リケッチア・その他	82	200	107	207
	(2) 食中毒・有症苦情検査	原因物質検査	185	1327	77	1246
	(3) 食品中の微生物検査	からし蓮根・馬刺・魚肉練り製品等	40	40	35	35
		野生鳥獣肉等	25	25	26	26
		生カキ・海水	7	7	8	8
	(4) 新型コロナウイルス検査	通常検査	0	0	23	23
		ゲノム解析	1028	1028	832	832
	(5) その他の微生物検査 (B型肝炎検査等)		85	170	88	176
	合計			1768	3337	1355
国庫委託調査	(6) 感染症流行予測調査 (感染源)		95	95	92	92
	(7) 感染症発生動向調査		93	930	105	1050
	合計			188	1025	197
調査研究	動物由来感染症に関する調査研究		647	1311	634	1134
	薬剤耐性細菌に係る調査研究		190	380	129	258
	腸管毒素原性大腸菌の汚染実態調査		390	390	0	0
合計			1227	2081	763	1392
総計			3183	6443	2315	5310